

新たな県産種雄牛「^{ふくひで}福秀165」の能力と特長

山形県農業総合研究センター畜産研究所

研究のねらい

「総称山形牛」のブランド力向上と県内肉用牛経営の安定に資するため、遺伝的に優れた能力を持つ雄牛と雌牛を交配して生まれた雄子牛の中から、高い評価の枝肉生産が期待できる新たな県産種雄牛「福秀165」を選抜した。

研究の成果

- ① 「福秀165」は脂肪交雑^{※1}と歩留基準値^{※2}に関して高い能力を有している（表1）。
- ② 牛肉のおいしさに関連する脂肪酸「MUFA^{※3}」のゲノム育種価^{※4}が、県産種雄牛17頭中第2位と、脂肪の質に関しても高い遺伝的能力を備えている（表1）。

※1 脂肪交雑：筋肉（赤身）に入り込んだ脂肪の程度、霜降り度合。BMSナンバー（1～12）で表す。

※2 歩留基準値：胸最長筋（ロース芯）の断面積から枝肉重量と整形した際の部分肉の重量割合を算出したもの。1頭あたりから牛肉の取れる量を表す。

※3 MUFA：一価不飽和脂肪酸。割合が高いと脂肪の融点が低くなり、脂肪の“口どけ”に大きな影響を与える。

※4 ゲノム育種価：多数の枝肉情報とDNA情報を基にした予測式に個体のDNA情報を当てはめることで算出される産肉能力の予測値のこと。

表1 福秀165産子の枝肉成績

頭数	出荷月齢 (月)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラ厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値 (%)	脂肪交雑 (BMS No.)	肉質等級 4・5割合	MUFA ゲノム育種価ランク ^{※5}
13 (去勢6、雌7)	30.3±0.6	484.4±44	66.7±10.0	8.8±0.7	2.5±0.9	75.7±1.7	9.2±2.6	92%	A

※5 ゲノム育種価ランクは、(独)家畜改良センターとの共同研究で算出されたもので、Aランクは基準集団内において上位25%以内10%未満にランクされる(令和5年2月評価)。



図1 福秀165



図2 「福秀165」産子のロース断面
(BMS No. 12)